



立命館ソーシャルインパクトファンド レポート 2021-2022

よりよい社会を、
一緒に考えて作っていきたい。



わたしたちは、大きな転換点にいます。
技術の革進にともなう、社会の価値観、幸せのありかた。
利益の最大化が重視されるこれまでの社会が、
変化していく兆しが見えています。

今、そしてこれから。
必要なものはなにか、
困ることはなにか、
周りや自分を幸せにするものはなにか。



すぐに答えは出ないこんな問題を、
わたしたち自身で考え、わたしたちの手で変えていく。
誰かが作ったものやサービスを消費するのではなく、
ありたい社会をじぶんたちでつくりだしていく。
利益の最大化から、コラボレーションの最大化へ。

よりよい社会を、一緒に考える。

本レポートでは、立命館ソーシャルインパクトファンド (RSIF) を
通じたとりくみをご紹介します。

RSIFとは

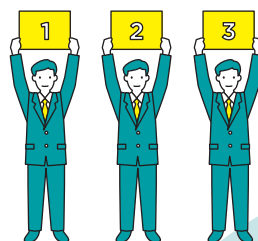
立命館ソーシャルインパクトファンド（RSIF）とは、

学校法人立命館の100%出資にて設置された、社会的企業へ投資を行うインパクトファンドです。

「グラスルーツ・イノベーション^(※)」をポリシーに投資先と教育・研究をつなぎ、社会への価値創出をめざします。

※ P.05参照

3つの特徴



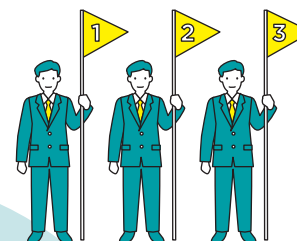
1 経済的リターンだけでなく、社会へ与えるインパクトを重視した、ソーシャルインパクトファンド

2 立命館単独出資により、投資先への長期的な支援が可能

3 出資先企業とともに、教育・研究における連携・実証実験を実施、ソーシャルインパクトを増大



3つのゴール



1 投資先との実証実験を通じた、長期的なソーシャルインパクトの創出

2 小学校から大学院までの一貫教育アントレプレナーシップ教育との連結による、長期的なイノベーション人材の輩出

3 ソーシャルインパクト創出を目指す人々のエコシステム・コミュニティの形成

ファンド概要

- ファンド規模: 10億円 ●設置時期: 2020年4月 ●名称: 立命館ソーシャルインパクトファンド投資事業有限責任組合 ●運用期間: 10年
- 投資対象: 社会課題をビジネスで解決しようとし起業している(もしくは起業予定の)、立命館学園の教職員、学生、卒業生 ※法人格形態は不問
- 運営会社名: プラスソーシャルインベストメント株式会社 ●投資方法: 株式、新株予約権、社債等 ●投資家: 学校法人立命館

RSIFの位置づけ

立命館 起業・事業化推進室 立命館学園の起業・事業化をワンストップでデザイン・推進



立命館 インパクトメイカーズ（社会への価値提供を行う人たち）支援プラットフォーム
Ritsumeikan Impact Makers Inter X(cross) Platform



一貫教育型
アントレプレナーシップ・
プログラム

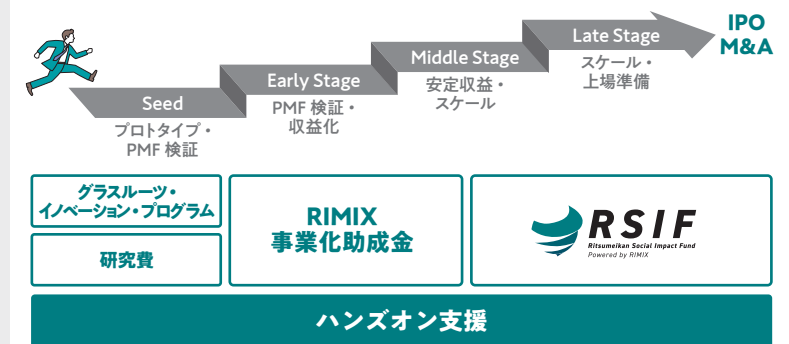
グラスルーツ・イノベーション

研究シーズ型
ベンチャーの創出

学外リソース・アクター

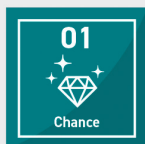
研究シーズ型ベンチャーの創出

RIMIXでは、研究シーズ型ベンチャーの創出に向けて、事業創出フェーズの各段階における、財政的支援、ハンズオン支援を行っています。RSIFは、研究と投資先の連携だけでなく、創出された研究シーズ型ベンチャーへの投資も想定しています。

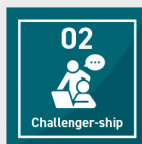


一貫教育型アントレプレナーシップ・プログラム

RIMIXでは、小学校から大学院までのプログラムを一覧化。一貫して、4段階のステップでアントレプレナーシップを育成、児童・生徒・学生のチャレンジを支援しています。RSIFは、教育と投資先との連携による教育プログラムの開発や、教育プログラムを経て生まれた学生ベンチャーへの投資も想定しています。



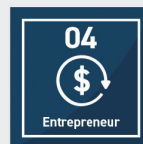
Chance



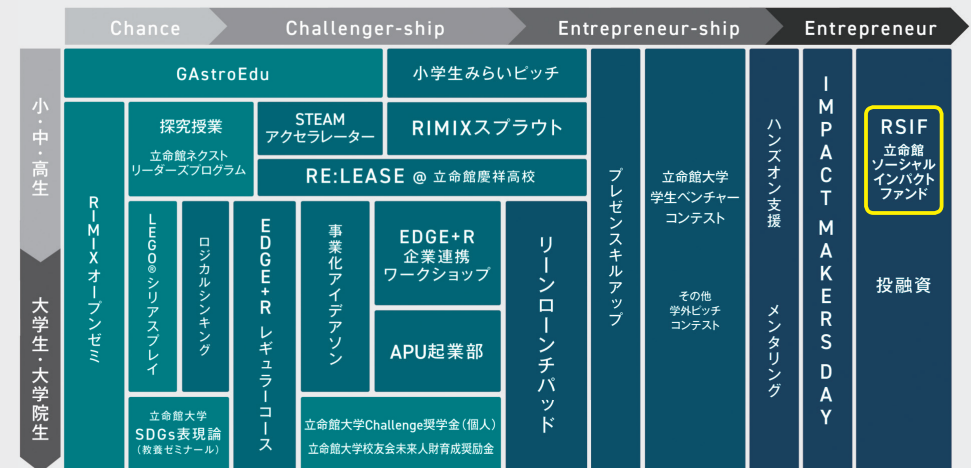
Challenger-ship



Entrepreneur-ship



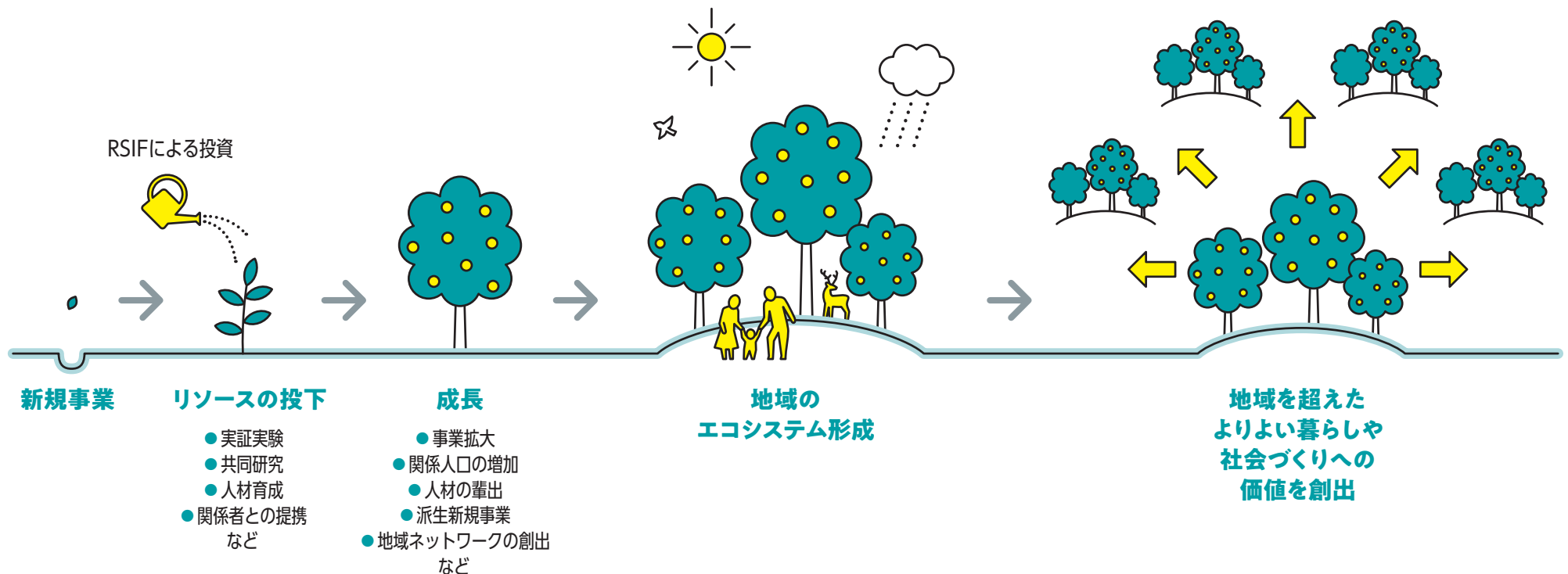
Entrepreneur



グラスルーツ・イノベーションとは

グラスルーツ（草の根）とイノベーションをかけた言葉。
地域の様々な課題に関わる人々がつながり、知を持ち寄りともに実践することによって
イノベーションを生み出すことを指します。

立命館学園では、さらに、広く地域を超え、
よりよい暮らしや社会作りへの価値を創出することまでを「グラスルーツ・イノベーション」と呼び、
社会への価値創造や、ソーシャルインパクト創出におけるポリシーとしています。





RSIF ポートフォリオ

komham

株式会社 komham

独自の微生物テクノロジーを使用した廃棄物処理技術の提供

08



ナオライ株式会社

「多様で豊かな日本酒文化を未来に引き継ぐ」をテーマに日本酒蔵元との連携事業を行う

10

WOTA

WOTA 株式会社

「人と水の、あらゆる制約を取り払う」をビジョンに水道依存型社会(大規模集中型)を解決

12



ADDress

株式会社アドレス

月額制で全国住み放題の多拠点居住プラットフォーム「ADDress」を展開

13



たんたんエナジー株式会社

電力の地産地消などエネルギー事業を通じて持続可能な地域づくりを目指す

14



株式会社 SeventhGenerationProject

スポーツを入り口に地域づくりに貢献するソーシャルデザインパークを運営

15



Rsmile 株式会社

地域の不動産の管理業務と住民のライフスタイルを繋ぐワークシェアリングサービス

16



株式会社 ARK

「養殖の民主化」をミッションとしてどこでも誰でも水産養殖ができる仕組みを提供

17



株式会社 AIVICK

一人ひとりに合わせた健康サポートを食とICTで実現、「FIT FOOD®」事業を展開

18

komham

株式会社 komham

かぶしきがいしゃコムハム

設立 2020年1月29日

所在地 北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク
1丁目1-10-211 (本社)

あらゆる人が持続可能な選択をしたくなる未来をつくる

インパクト
ビジョン

- 有機性廃棄物を高速で減容させるバイオマス処理システムを提供し、大幅なゴミ減量を実現する
- これまでの大型プラントを不要にし、ごみ処理のインフラをアップデートさせる

有

機性廃棄物を1日という高速で二酸化炭素と水に変える牧場由来の微生物群「コムハム」を開発。その技術を用いたバイオマスリサイクルシステムを提供し、食品ロスや家畜糞尿の処理問題を解決している。また、技術を応用したコンポストの新たなサービスや商品の開発を行い、だれもが意識せずとも環境にやさしい暮らしができるインフラ作りによる、ゴミ問題とそれにまつわる気候変動課題の解決を目指す。

2021年10月からスタートした、渋谷区のゴミ減量実証事業に参画。渋谷区ふれあい植物センターや東急プラザ表参道原宿など、渋谷区内にコムハムコンポストが設置されている。

「ESG TECH BATTLE 2022 by NEDO」にてCIC賞を受賞。

R
RITSUMEIKAN

コラボレーション with 立命館

● 2022年5月～

立命館大学びわこ・くさつキャンパス (BKC) にて、コンポストによる食品廃棄物の処理実験を開始



komham



西山 すのさん
SUNO NISHIYAMA

代表取締役 CEO

北海道苫小牧市出身。立命館慶祥高等学校卒業後、立命館アジア太平洋大学（APU）を卒業。大手アパレル会社に入社し、その後PR会社やゲーム会社の広報職を経験。クリエイティブラボ『PARTY』にPR職として入社後、フリーランスを経て、2020年に komham を創業。

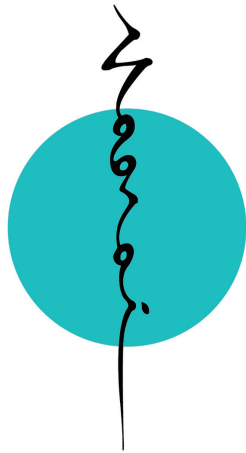
環境事業を起こす以上、大きなインパクトをめざす

PR職として2－3年スパンの消費を促進する案件を繰り返す中、「自己満足で終わっている」という思いにかられていった西山さん。社会への価値を創造していくには自分の手で事業を興すしかない、と、起業を決意。父が当時行っていた、微生物を使った廃棄物処理技術事業を引き継いだ。

バイオ領域は、「社会的インパクトがあり、自分が時間をかけてでも成し遂げたいと思えるような、壮大なテーマにしたい」という彼女のビジョンに合っていた。また自身の広告PR出身という強みを生かせる分野でもあった。

「バイオ領域はやり方次第だなと思っていたんですよ。研究職の人たちは「研究者の言葉」でコミュニケーションしがち。だから komham が、世の中に意義や実績の情報をきちんと伝えることができれば、可能性がある。成長性や社会的意義という点では絶対に勝てないと思ってきた、エンジニア出身の社長がつくるテック系企業にも勝てるんじゃないかなと思ったんです。」

西山さんは、komham をただの社会的活動で終わらせたくない語る。「そうすると、komham のことを広く知ってもらわないといけない。会社としての社会的信用も、売り上げも必要。世の中に対するインパクトは売り上げとして返ってくるはずなので、ニッチな方向には行かないと決めています。小さくはまとまりませんよ」



時をためて、人と社会を醸す



ナオライ株式会社

ナオライかぶしがいいしや

設立 2015年4月6日

所在地 本社 広島県呉市豊町久比3960番三角島
酒蔵 広島県神石郡神石高原町小島1729-3

インパクト ビジョン

- 空き酒蔵をリノベーションし、そこが浄酎の生産拠点として再稼働し、活性化することを通じて、各地で日本酒を軸にした地域活性化モデルを作る
- 上記モデルをもとに、全国8拠点に浄留所をつくり、全国80酒蔵との連携を目指す

ス

パークリングレモン酒「MIKADO REMON」開発により、オーガニックレモンに付加価値をつけ、安全な農産物の生産環境を守る取り組みを実施。

日本酒の「低温浄溜」を編み出し、旨味成分や風味を生かしたまま長期熟成に耐え得るウィスキーのようなお酒「浄酎」を開発。

経営継続が困難な酒蔵と提携し、酒造がオーガニック米で作った純米酒で浄酎を製造している。これにより、ナオライ拠点周辺で酒蔵が活性化したり、有機農家が増えるモデルを構築している。日本酒文化の衰退、自然や生き物と乖離した世界や日本酒の製造免許者数の低下等の課題解決を通して日本文化の継承と発展、自然や生き物と共生している世界の実現を目指す。浄酎、琥珀浄酎は、世界的な酒類品評会、International Spirits Challenge 2021のLiqueurs & Specialities部門銀賞、銅賞を受賞。

R
RITSUMEIKAN

コラボレーション with 立命館

● 2021年～

生命科学部若山教授と浄酎生産時の副産物の有効利用についての共同研究開始

● 2022年

JR西日本グループと連携した、地域創生事業に関する教育プログラムの実施



三宅 紘一郎さん
KOUICHIRO MIYAKE

代表取締役 CEO

広島県出身。日本酒の酒蔵一族に生まれる。2007年立命館大学経済学部卒業後、9年間上海で過ごし日本酒を売り歩く。2014年東京でソーシャルスタートアップアクセラレータープログラム SUSANOO と出会いナオライを創業。2019年一般社団法人まめな共同代表理事に就任。

人の営みが自然や生物と調和する世界をつくる

瀬戸内海に浮かぶ広島県大崎下島 久比地区、三角島。5月にはさわやかなレモンの花の匂いに包まれる。親族に酒造関係者が多く、小さい頃から日本酒業界が身近だった三宅さん。しかし日本酒の消費は落ち込み続け、業界は衰退していく。その危機感から大学在学時に上海に留学、卒業後も上海で日本酒の販売やマーケティングに携わる。「当時から日本酒は「SAKE」として海外でも人気になり始めていました。しかし、日本酒は水分が多いため劣化が早く、ウイスキーやワインのようにヴィンテージにはならない。消費期限の壁があります。」

三宅さんは「自分が日本酒業界を変えたい、究極の日本酒ブランドを作りたい」という思いを抱き、日本に帰国する。

帰国した三宅さんは、日本初の社会起業家アクセラレータープログラム SUSANOO へ参加する。孫泰蔵氏の言葉「スタートアップの使命は世界を変えること」「小さくても業界課題が音を立てて変わるような、その人にしかできないことをしろ」を胸に、地元広島で、ナオライを創業した。

「2017年のオーガニックレモンで作るお酒、MIKADO REMON リリースの過程で、有機栽培を行う農家さんや島の人々と出会い、人と自然が調和する酒造りを意識するようになりました」

その関心は地域コミュニティにも広がり、大崎下島 久比地区で暮らしを作る、一般社団法人まめなの設置運営にも携わる。

「お酒を造り、レモン農園や水田が広がるほど、人の営みが自然や生物と調和する世界になるような、持続的な経済や暮らしを自分たちで造り上げていくモデルを、久比・三角島から確立させることを目指しています」

WOTA

WOTA 株式会社

ウォーターかぶしがいしゃ

設立 2014年10月24日

所在地 東京都中央区日本橋馬喰町 1-13-13

水問題を構造からとらえ、解決に挑む



インパクト ビジョン

◎2030年に人類の40%が水不足に直面すると言われ、
上下水道の深刻な財政課題が顕在化する中、水不足や人口変動に適応する
「小規模分散型水循環システム」の技術実証や事業化を促進。
水インフラの新たなスタンダードとなることを目指す。

生 活排水を再生し最大限有効活用
する「小規模分散型水循環システム」及びそれを実現する「水処理自律制御技術」を開発。災害時の断水状況下
における応急的な水利用の実現や、公衆衛生の向上に寄与する2製品を上市。
人類の持続可能な水利用のため、「小規模分散型水循環社会」の実現を目指す。
2021年、日本から唯一「アースショット
賞・ウィリアム王子特別賞」を受賞。



山田 諒さん

RYO YAMADA

執行役員・
インキュベーション統括
2011年 理工学部卒

R
HITSUNAGI

コラボレーション with 立命館

● 2022年

立命館小学校、立命館アジア太平洋大学、立命館大学
びわこ・くさつキャンパス
(BKC) に、水循環型手洗い
スタンド「WOSH」を導入





株式会社アドレス

かぶしがいしゃアドレス

設立 2018年

所在地 東京都千代田区平河町二丁目5番3号
(本社)

いつもの場所がいくつもある、という生き方をあたりに



インパクト ビジョン

- 幸福感を持って生きる人々の増加
- 観光によらない地域のあり方の実現



空

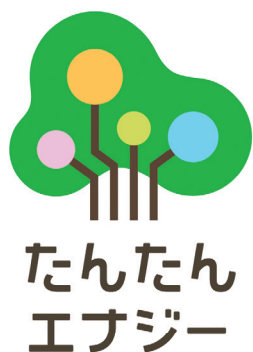
空き家をはじめとした日本各地の遊休物件を活用した、**住まいのサブスクリューサービス「ADDress」を提供**する。各物件には、地域と利用者をつなぐコミュニティマネージャー「家守」が常駐。空き家問題の解決とともに、地域に溶け込む多拠点コリビング(co-living)という新しいライフスタイルを提案する。



佐別当 隆志さん
TAKASHI SABETTO

代表取締役社長

大阪府出身。2001年立命館国際関係学部卒業後、ガイアックスに入社。広報・事業開発を経て、2015年一般社団法人日本シェアリングエコノミー協会を設立。内閣官房、総務省、経産省のシェアリングエコノミーに関する委員を務める。顧客に提案していた、空き家を活用した関係人口モデルの事業化が頓挫し、自分でやるしかないと、2018年にADDressを創業。「多拠点生活が一般化する未来を作り、働く、学ぶ、遊ぶ人が地方へ行き来することで、地域に人金モノが流れ、地域の課題を解決していく状況を生み出して行きたい。」と語る。



エネルギーの地産地消を通じて、持続可能な地域を作りたい



たんたんエナジー株式会社

たんたんエナジーかぶしがいいしゃ

設立 2020年1月10日

所在地 京都府福知山市篠尾新町3丁目79-2 竹下ビル202号室

インパクト ビジョン

- 地域活動の動きを支える新しい仕組みの構築
- 脱炭素社会の実現

再 生可能エネルギー由来の電力を提供し、電力の地産地消を通じた持続可能な地域づくりに貢献する事業を展開している。福知山市を含めた5者と協定を結び、小・中学校を含む公共施設40カ所以上に**再生可能エネルギーの電気を販売**。また、**オンサイト PPA 方式による市の施設への太陽光発電システムや蓄電池の整備**も進めている。

オンサイト PPA プロジェクトでは、初期投資を市民出資とし、剰余金を還元するしくみを取り入れ、地域のお金を地域で循環させることを目指す。



木原 浩貴さん
HIRO TAKA KIHARA

代表取締役 CEO

岐阜県出身。大学在学時から NPO 法人気候ネットワークでボランティア活動を開始。小学校での出前授業などのプロジェクトを担当。2000年立命館大学産業社会学部卒業後、同団体のスタッフに就任。2003年の京都府地球温暖化防止活動推進センター立ち上げに携わり、設立と同時にスタッフに就任。2011年より同センター事務局長。省エネラベルの社会実装を通して、地産地消を取り巻く経済活動の中に気候変動対策が取り入れられることを経験。エネルギーの地産地消を実現するために、2020年に「たんたんエナジー」を創業。「地域の方々が再生可能エネルギーに対してポジティブに受け止められる、そして日常の中に当たり前になった温暖化対策がある社会を創りたい」と語る。



スポーツを通じて、200年先を見据えた地域づくりを



株式会社 SeventhGenerationProject

かぶしがいいしゃセブンスジェネレーションプロジェクト

設立 2018年12月21日

所在地 滋賀県大津市日吉台3-27-1

インパクト ビジョン

- 持続可能社会の担い手の輩出
- 持続可能社会の資する事業の増加



“Seventh Generation” は、ネイティブ・アメリカンの部族に伝わる教えで、「七世代前までに感謝し、七世代先までに祈りを届けるように生きる」という意味を持つ。スポーツを入口にした地域づくりに貢献することを目指し、滋賀県大津市に「SG-Park」を開設。「地産地消」「身土不二」にこだわったメニューを提供するレストランと、様々な世代がスポーツを通じて交流する地域スポーツ施設が併設されている。また、スポーツスクールやスポーツチームも運営している。



牧 貴士さん
TAKASHI MAKI

代表取締役 CEO

滋賀県大津市出身。2004年立命館大学経営学部卒業後、営業代理店を経て、2005年 catchtheclimax.inc を創業。Web サービス制作や新規事業開発、起業支援を行う。2011年、滋賀にUターンし、ロフトワークを経て、リサーチ、企画、コンセプト設計を主とした高緯企画を設立。2018年より現職。「世界中の人々がチャレンジできる世界を、当たり前」を実現するため、起業支援や地域活性化事業など様々なプロジェクトをプロデュース。学生時代にバスケットボールに注力した経験から、「スポーツには人の感情を動かす力がある」と感じ、スポーツを入口にした交流施設「SG-Park」をオープン。「200年先の人も暮らしやすい地域を作るために、自分のできることを着実に実行していきたい」と語る。



Rsmile 株式会社

アールスマイルがぶしきがいしゃ

設立 2020年 5月

所在地 東京都中央区日本橋中洲6-10

不動産業界の課題解決を起点にいい街を作りたい



インパクト ビジョン

●不動産業務を開放し、誰もがダイレクトにアクセスできるプラットフォームを創造。
多重構造の解消、オンライン完結を通じて、安心・早く・簡単な
新しい不動産取引を実現する

地 域の不動産の管理業務と住民のライフスタイルを繋ぐワークシェアリングサービス「COSOJI（こそーじ）」を提供する。地産地消サービスによる顧客の満足度向上、地域での仕事循環、適切な不動産管理ができないという業界問題の解決、という「地域」「業界」「オーナー」への三方よしを提供し、不動産に関わる全ての人々に「快適で安心な環境」を提供することを目指す。



富治林 希宇さん

NEGAU FUJIBAYASHI

代表取締役 CEO

京都府出身。2012年立命館大学理工学部卒業後、大手不動産会社ザイマックスグループにて、様々な不動産の管理・運営に従事。その後、投資銀行のファーストブラザーズにて多数の不動産投資・運用業務を執行後にクラウドリアルティにて投資銀行部長として、まちづくり・新規事業支援・不動産開発・運営・プラットフォーム開発・組織づくりなどに従事。民泊や改修古民家を活用した事業にて、地域住民が自身のホスピタリティを発揮して運用に関わると、利用者の満足度を上げることを経験。地産地消でサービスを回すことに可能性を感じ、2020年にRsmile(株)を創業。「適切な建物の管理という業界の課題解決を起点に、いい街を作りたい」と語る。



株式会社 ARK

かぶしがいいしゃーク

設立 2020年12月23日

所在地 東京都渋谷区広尾1丁目7-20 (本店)

誰でもどこでも陸上養殖ができるシステムを



インパクト ビジョン

- 閉鎖循環式で生産することによる「安心・安全性」や、小型・分散型の生産と“活”で流通することによる「おいしさ」をマーケットに訴求し、ブランドの確立を図る
- 世界中のあらゆる地域に当社製品の「ARK」が設置され、各地域に新たな産業が興る、その担い手となる

閉

鎖循環式陸上養殖システムの設計、開発、製造および付帯サービスの開発と提供を行う。「ARK」は、駐車場1台分で設置でき、太陽光など再生可能エネルギーで稼働し、水道の引き込みがいない省エネな**小型分散型陸上養殖システム**。自動給餌機やポンプ・ヒーター連動コントローラー、水質モニタリングセンサーなども設置されており、養殖を低コスト化かつ汎用化することに成功した。JR東日本スタートアッププログラム2021で審査員特別賞を受賞、JR常磐線の浪江駅でバナメイエビ養殖の実装実験を開始。



竹之下 航洋さん

KOYO TAKENOSHITA

代表取締役 CEO

1981年生まれ。鹿児島県鹿屋市出身。高専にて電子制御工学、メカトロニクスを学んだ後、立命館大学に編入しロボティクス及びBio Medical Engineeringを専攻(工学修士)。卒業後は一貫してHWスタートアップに身を置き、製品の企画・開発・生産技術等を担当。IoTに関する著書及び特許多数。2016年より(株)ウフルに参画し、エバンジェリストや技術責任者等を歴任。2020年にARKを共同創業し、代表に就任。好きな魚はアジ。



株式会社 AIVICK

かぶしがいしゃアイヴィック

設立 2005年4月20日

所在地 京都市南区八条町416 米澤京都八条ビル6F

正しい情報を得て、健康な生活が送れる世界を



インパクト ビジョン

- 病院との連携による病気と寄り添うストレスフリー食の提供開始
- 自然に健康になれる“ナッジ”的プラットフォームの実現と医療連携による健康寿命延伸

「天 寿を全うするまで健康的な日々を無理なく送れる世の中を作る」をビジョンにシステムインテグレーション事業と食事業の異なる分野の技術を有する企業として、**目的別デリバリー食「FIT FOOD®」アプリの開発と運営を行う。**

また、健康事業者と協業プラットフォームを構築し、健康な食と運動に関わる多彩なWEBサービスを展開する。



矢津田 智子さん

TOMOKO YATSUDA

代表取締役社長

福岡県出身。高校時代は水泳の国体選手。1995年立命館大学法学部卒業後、ベンチャー企業でのソフト開発やWEB系のDBエンジニアとして活動。2005年ソフトウェア開発を行う株式会社AIVICKを創業。その後、個人最適食プラットフォーム「FIT FOOD®」事業を始動させた。アメリカでの食品表示データを活用した食生活の改善によって膠原病が寛解したことを機に、個人最適食プラットフォーム「FIT FOOD®」事業を始動。無添加、目的・栄養に応じた健康食を追求し、3万名以上の会員を抱えるサービスへと成長させている。「ICTによる食のメタデータ化を進め、自然に健康になれる“ナッジ”的プラットフォームの実現と医療連携による健康寿命延伸をめざしたい」と語る。

レポート編集メンバー



一瀬 優菜

2022年 立命館大学
経営学部卒業
ソフトウェア会社勤務

RIMIXは、学びだけでなく、実装までも支援する体制が面白いです！輝かしい先輩方を拝見でき、大変刺激になりました。



川村 幸生

立命館大学 薬学部 6 回生
プラスソーシャル
インベストメント株式会社
インターン生

2020年度のRSIF創設から3年程が経ち、これまでの各企業様の取り組みをレポートとして皆様に紹介できること、その作成に携われたことを大変嬉しく思います。本レポートが社会課題解決への関心を高める一助となればと思います。



古谷 結依

立命館大学 政策科学部 4 回生
立命館起業・事業化推進室
インターン生

レポート作成にあたりRSIFの世界観をうまく伝えることができるよう、職員の皆さんやプラスソーシャルインベストメントの皆さんと話し合いを重ねるなどして、大変貴重でやりがいのある経験をさせて頂きました。多くの方に関心を持って頂ければ幸いです！



野池 雅人

プラスソーシャルインベストメント株式会社
代表取締役社長



豊田 耕三

立命館大学 教学部部长



酒井 克也

学校法人立命館 財務部部长



富田 沙樹

学校法人立命館 総合企画部
起業・事業化推進課

立命館起業・事業化推進室